



すみだだより

令和8年9月1日 校長 深谷純一

「防災について」

例年9月1日は、大正12年9月1日に発生した関東大震災等をきっかけとして「防災の日」と定められています。本校でも9月2日(水)には地域と連携した総合防災訓練を実施する予定です。

私事ですが、母親の実家が熊本県八代市氷川町で、令和8年熊本地震の震源地でした。母親の実家は、既に親族は誰も住んでいませんでしたが、お墓参りなどで帰省することがあるので日常的な生活が出来る状態だったのですが、右の写真のようにタンス等が倒れ、大黒柱が歪むなどの被害がありました。もともと8月10日の週にお墓参りに行く予定でしたので、片付けなどをしてきましたが(2枚目の写真に写っているのは校長です。)、町中も一見大丈夫そうな家屋が、よく見ると半壊や全壊扱いで、道路や水道やガスなどのインフラも緊急の補修があちこちで行われており、全国から様々な種類の支援が入っているのもよく分かりました。倒壊している家屋も多かったことから、母親の実家はまだ住める状態だと思っていたところ、自治体の診断では大規模半壊との評価で、想像しているよりも被害が大きいことも分かり、今後の対応を考えているところです。東京から現地に行く前に、氷川町のボランティアセンターに、災害復興支援の事前登録を行っておき、実家を片づけた翌日には、地域で被災しボランティアセンターに要請のあった住居の後片付け、敷地内や住居内の汚泥の除去などを行ってきました(3枚目の写真に写っているのも校長で、活動先は個人宅なので写真などは禁止、ボランティアセンター内の様子です。)。活動は5人1組で町内からの要請に派遣され、使えなくなった家具、寝具や衣類、崩れた壁などを撤去し、被災ゴミの集積場に運搬してきました。この地域から出てくる被災ゴミ受入や分別が非常に膨大で、対応が厳しい状況でした。

全国特別支援学校長会が現地の特別支援学校から8月5日の時点で提供された情報では、県内24校の特別支援学校のうち学校施設の損傷は6校、立入不可の区域がある学校は3校と伺っています。報道によれば、多少の遅れはあるものの2学期は始まるとのことです。大規模災害や広域災害等の発生時に、被災自治体からの要請を踏まえ、文部科学省が被災地学校支援チームを設置する自治体と調整し、訓練を受けた教職員等で構成するチームを被災地の学校等へ派遣して、学校再開や児童・生徒等の心のケアなどを支援する取組があります。東京都でも、こうした支援に取り組んでいく予定です。

今年度、本校での大規模災害時における対応として、スクールバスが運行できない状況を想定した引き渡し訓練は10月24日(土)に実施を予定しております。今回は台風を想定していますが、公共交通機関が使えないことを想定して、御自宅から学校まで歩いてみる、もしくは学校から御自宅まで歩いてみるなど、より実際に被災している状況を想定して取り組んでいただければと考えています。先日の令和8年8月千葉豪雨では、多くの地域が冠水しましたが、例えば御自宅と学校の間でも通常なら通れる道が、実際に歩いてみることで、ここは使えないかもしれないと分かったり、お子さんと一緒に長い距離を歩いて移動する経験があると、被災した場合の参考になると思います。全てのリスクに備えることは難しくても、避難訓練や防災教育を通して、子ども達と共に、自分の身は自分で守る「自助」の意識を育てるとともに、地域と連携した「共助」の環境を構築していきます。

